

江戸時代に発達した文化には、詩歌、茶道、華道などがある。和算もその1つである。この日本独自の和算が西洋の数学と大きく異なる点は、学問としてというよりも民衆の文化として発達したところにある。和算は、各階層・各地方へと伝播していったが、その要因の一つには江戸時代中期より発生した数学の絵馬の影響があった。

ここ西濃地区においても、谷幽齋・森島簡裁・浅野天極齋という偉大な和算家が現われ、彼らの門人が近くの神社仏閣に幾つかの算額を奉納している。

この素晴らしい文化的な要素を有する算額の術文を現代的な解答で後世に残していきます。

岐阜県西濃地区奉納算額の解答書をご希望の方はメールにてご連絡ください。

記入事項 郵便番号 住所 名前 電話番号 希望の書名

(または書名の前の丸数字) で何冊か

E-mail: [mizuryu@aqua.ocn.ne.jp](mailto:mizuryu@aqua.ocn.ne.jp)

- ① 天保13年(1842) 南宮大社奉納算額の解説と解答 (令和2年12月5日)  
12題 37P A4版
- ② 天保年間 大垣八幡宮奉納幽齋算約三編の解説と解答 (令和3年3月27日)  
10題 35P A4版
- ③ 弘化2年(1845) 南宮大社奉納算額の解説書 (令和2年12月19日)  
8題 35P A4版
- ④ 元治2年(1865) 金生山明星輪寺奉納算額の解説書 (令和4年2月7日)  
12題 47P A4版
- ⑤ 天保年間 大垣八幡宮奉納幽齋算約四編の解説書 (令和3年10月15日)  
32題 41P A4版
- ⑥ 慶応元年(1865) 釜笛八幡宮奉納算額の解説書 (令和3年10月15日)  
7題 19P A4版
- ⑦ 天保12年(1841) 弘化2年(1845) 田代神社奉納算額の解説書 (令和4年11月22日) 10題 31P A4版
- ⑧ 令和六年 栗原西法寺 奉納算額 解答書・江戸時代の西濃の和算家 (令和6年5月27日) 12題 43P A4版

定価 各々 1,000円(送料込)



# 天保13年南宮大社奉納算額(複製)

## 解説と解答



不破郡垂井町宮代 南宮大社 楼門



横188cm 縦68cm

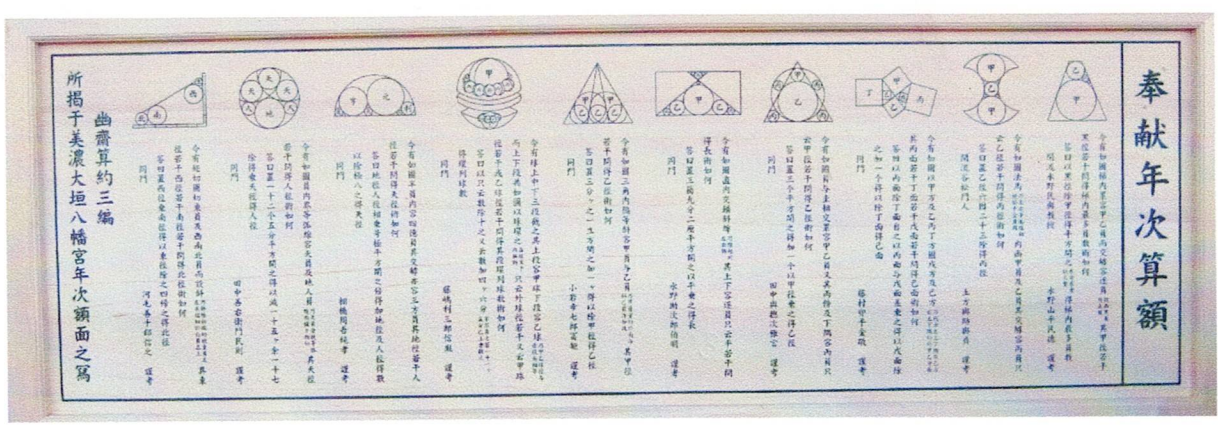


# 天保年間大垣八幡宮 奉納算額

## 解説と解答



岐阜県大垣市西外側町一丁目 八幡神社



大垣八幡神社にある算額（複製） 横 188 cm 縦 68 cm

江戸時代末期、谷松茂（幽齋）は大垣藩士で致道館講官であった水野民興に学び、自ら塾を開いて和算を教えていました。彼の門人達が大垣市の八幡神社に天保年間に算額（絵馬）を奉納しています。この算額は残念ながら先の戦争で神社ごと焼失したことを知り、奉納された算額は復元をし、後世に残しておきたいと熱望した次第です。

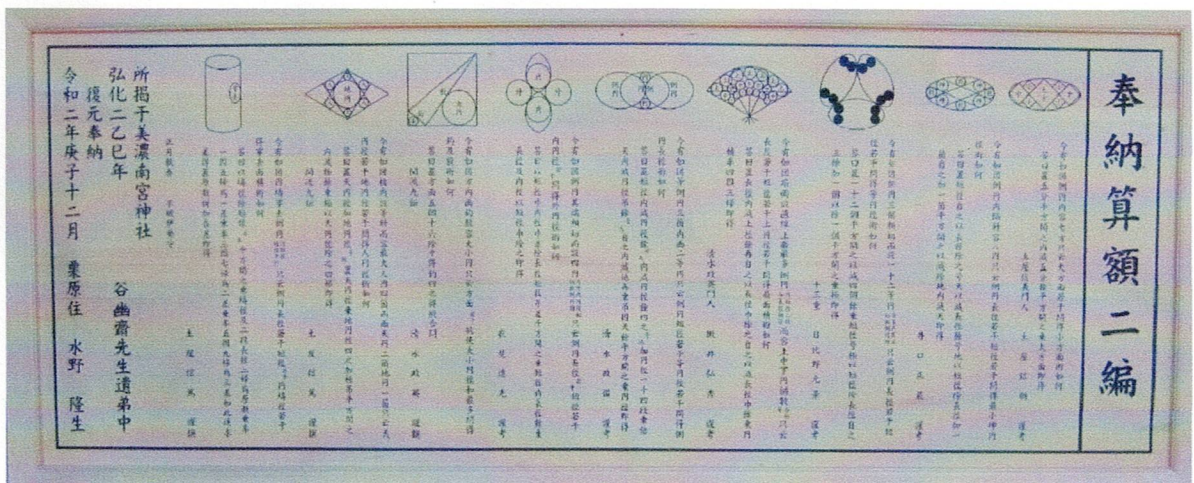


# 弘化2年南宮大社奉納算額(複製)

## 解説書



不破郡垂井町宮代 真禅院 三重の塔 (国重要文化財)



朝倉山真禅院に奉納した復元算額 横 150 c m 縦 60 c m

江戸時代末期、大垣で和算塾を開いていた谷幽齋先生の遺弟中が、天保12年(1841)に亡くなられた師を偲んで、弘化2年(1845)南宮大社に算額(絵馬)を奉納しました。この算額は残念ながら現存していないのを知り、奉納された算額を朝倉山真禅院に復元し、後世に文化財として残しておきたいと熱望した次第です。



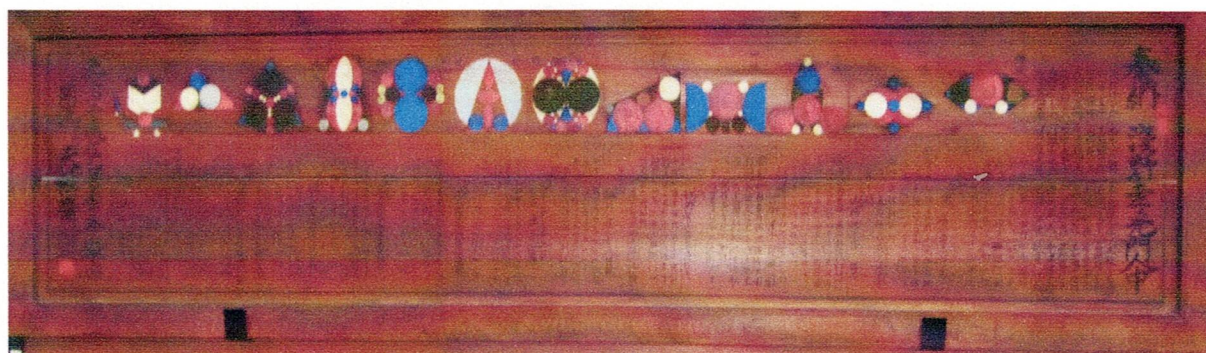
# 元治2年(1865)金生山明星輪寺奉納算額 解説書



大垣市赤坂町

金生山明星輪寺

山門



岐阜県重要有形民俗文化財 大きさ 横 240 c m 縦 60 c m

算聖関孝和の流れを汲む大垣藩領内の安八郡（現在は大垣市）外野郷算光堂塾長浅野孝光(天極斎)の門人12人(うち女子3人)が奉納したこの算額絵馬は、初段から10段までの12問が、円形、三角形、菱形などを多角的に組み合わせ、赤、白、黄、浅青、緑の彩色された幾何学模様の難問である。この算額は神仏に奉納し、感謝を捧げると共に、後世の人に「解いてみよ」とチャレンジを促している。

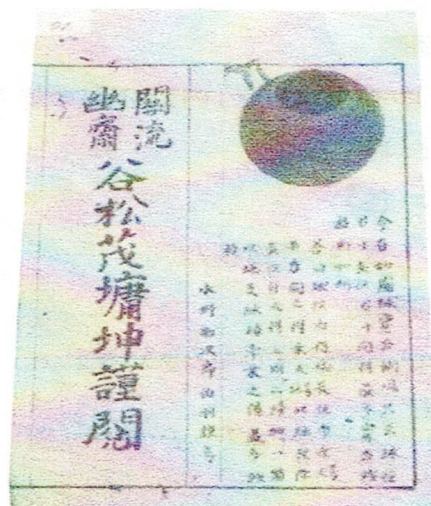


# 天保年間大垣八幡宮 奉納算額

## 幽齋算約四編 解説書



岐阜県大垣市西外側町一丁目 八幡神社



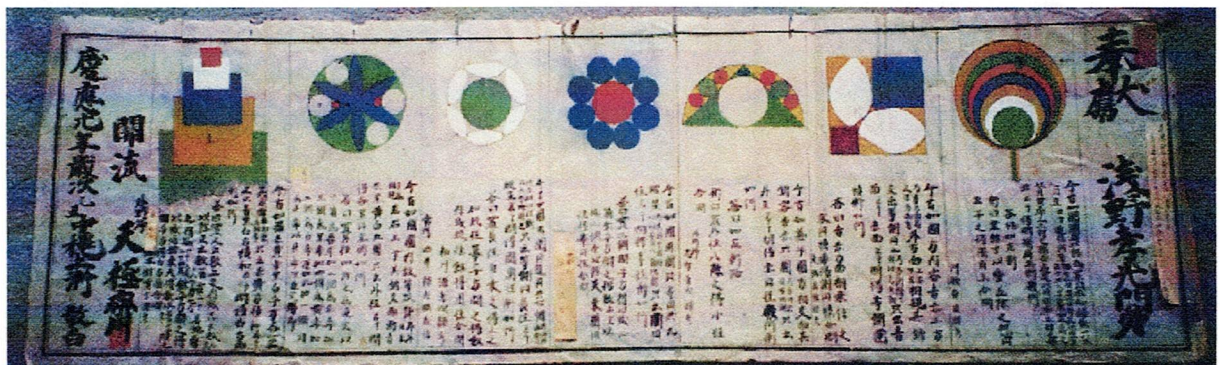
江戸時代末期、谷松茂（幽齋）は大垣藩士で致道館講官であった水野民興に学び、自ら塾を開いて和算を教えていました。彼の門人達が大垣市の八幡神社に天保年間に算額（絵馬）を奉納しています。この算額は残念ながら先の戦争で神社ごと焼失したことを知り、奉納された算額の解法を後世に残します。



# 慶応元年(1865)大垣市外野釜笛 八幡宮奉納算額 解説書



岐阜県大垣市釜笛 1 丁目 203 番地 釜笛八幡神社



和算研究家 小寺裕氏の「和算の館」サイトから貼り付けました。

この算額は大垣市外野釜笛 釜笛八幡宮 宮前地藏堂に浅野孝光(天極斎)の門弟が1865年に奉懸したものです。高木重之著の「岐阜県の算額の解説」から問題文を参照して、現代的な解法を載せます。

「和算の館」のサイトは [www.wasan.jp](http://www.wasan.jp)



# 天保 12 年 (1841) 田代神社奉納算額

## 解 説 書



養老郡養老町高田

田代神社



現存する算額 (養老町指定文化財)

縦 65 c m 横 99 c m



# 令和六年 栗原西法寺 奉納算額

## 解答書・江戸時代の西濃の和算家



奉納算題

第一問  
図の如く勾股内に三圓を容れる。只云  
甲径五十四寸、乙径九十九寸、丙径五十四寸と  
勾股は或る正三角形、方正方形  
答曰 与二十一寸、竪二十八寸  
文獻 算法本意初算題 抜粋

第二問  
図の如く勾股内に一圓を容れる。只云  
竪八寸、長四寸、斜二寸、勾何程と問  
答曰 与三寸  
文獻 算法本意初算題 抜粋

第三問  
図の如く直線上に四圓を載せる。只云  
甲内径二十五寸、丙内径一寸  
乙丁内径何程と問  
丙径は丙の直径  
答曰 乙内径九寸、丁内径四寸  
文獻 算法本意初算題 抜粋

第四問  
図の如く、四角内に大内小内各二圓を容れる  
只云長六寸、短四寸、大内径何程と問  
何内は内径  
答曰 大内径 三寸  
文獻 算法本意初算題 抜粋

第五問  
図の如く、一辺が一の正三角形内に一圓に接する  
東西三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

第六問  
図の如く、一辺が一の正三角形内に一圓に接する  
内側内に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

第七問  
図の如く、一辺が一の正三角形内に一圓に接する  
内側内に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰 一、一、一、一、一、一  
出題者 本郷守 時國敬夫

第八問  
図の如く、一辺が一の正三角形の二辺に接する  
一圓の内側に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

第九問  
図の如く、一辺が一の正三角形の二辺に接する  
一圓の内側に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

第十問  
図の如く、一辺が一の正三角形の二辺に接する  
一圓の内側に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

第十一問  
図の如く、一辺が一の正三角形の二辺に接する  
一圓の内側に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

第十二問  
図の如く、一辺が一の正三角形の二辺に接する  
一圓の内側に三圓がある。東西の半径何程と問  
答曰  
出題者 本郷守 時國敬夫

所掲不破郡栗原中華山西法寺本堂  
令和六年甲辰五月吉祥日 栗原 水野隆生

大きさ 横 270 cm 縦 60 cm

1497年の開祖栗田順誓氏が創建した不破郡栗原村の西法寺本堂に現代版の算題 12問の算額を奉納する。江戸時代に花開いた和算文化の素晴らしさを後世に残したいと熱望しつつ、この奉納算題が未来につながる和算に貢献できることを切望する。